

徐々に低下する 判断能力に向き合うための 意思決定支援

～法的視点と倫理的プロセス～

社会医療法人岡村一心堂病院 経営企画室
理事長補佐 弁護士 三宅京子

自己紹介

- 2012年 弁護士登録 法律事務所へ入所
- 2014年 岡村一心堂病院に入職
- 2022年～理事長補佐
- 入職時から常駐しています。
- 業務内容
- 各種の院内規程の見直し、倫理研修や個人情報保護の研修など、病院運営全般のサポート業務を行っています。
- 2023年～2024年は、岡山大学病院医療安全管理部にも週1回勤務していました。

病院紹介

- 理念「より良い医療を地域の人々に」
- 目指す病院像「がんと心臓 かかりつけ」

- 常勤医師17名 非常勤医師30名
- 152床
(急性期7：1 DPC 34床、地域包括ケア49床、緩和ケア21床、障害者等一般48床)

- ポストアキュート、サブアキュート、回復期、慢性期、地域密着型の病院として、多種多様な病態の患者さんを受け入れています

意思決定支援って何だろう

- 「意思決定支援」とは、意思決定に困難を抱える人が、日常生活や社会生活等について自分自身がしたい（と思う）意思が反映された生活を送ることが可能となるように、その人を支援することやその仕組みをいいます（第二東京弁護士会HPより）。

なぜ今、意思決定支援が重要か

社会背景と現状

- 少子高齢化、核家族化、**単身世帯の増加**
- 高齢社会の進展で、**認知機能が低下している方も増加**
- 本人の意向を尊重する重要性と権利意識の高まり

「本人の意思を確認する」

「家族での話し合い」

以前は当たり前、簡単に実行できた事象を行うことが難しい社会

現場のホンネ

- **現場の葛藤:** 「ご本人のため」って、本当にそうかな？これでいいのかな？、迷ったり、不安になることありませんか？
- **迷いや不安 :**倫理的に大丈夫？法律的に問題はない？
- **今日のお話:** 迷いや不安を抱えながら、意思決定支援に関わるみなさんの迷いや不安が少しでも減らすことができればと思います！

意思決定支援の基本原則

■ 意思決定能力の基本的な4要素

1. 理解：治療に関連する情報を理解
2. 論理：得られた情報を論理的に操作
3. 認識：治療の行われる状況や治療により生じる結果を認識
4. 選択の表明：治療に関する意思決定の結果を他人に伝達

- 上記の要素は**固定的ではなく**、判断の内容、時期、体調、環境の変化などにより**変動する**
- 「能力がない」「既に意思決定は行われている」と**安易に判断しない**

意思決定支援の4つのステップ再確認

1. 本人の意向の把握

本人の言葉、行動、表情から何を望んでいるかを丁寧に探る。

2. 情報提供と対話

わかりやすい言葉で、選択肢とそのメリット・デメリットを伝える。

3. 意思決定の確認

本人が納得したか、キーパーソンや家族が納得したか、確認する。

4. 記録と共有

決定プロセスと内容を記録し、多職種で共有する。

倫理原則の再確認

- **自律の尊重**：本人決定の尊重
- **善行**：本人にとっての最善
- **無危害**：本人に害を与えない
- **正義**：公平な医療・介護の提供

倫理的担保とは何か？

- 関係者全員が「これでよかった」と納得できるプロセスを経た状態であり、次の3つの要素を満たす状態をいう。

■ 納得性

意思決定に関わる全ての関係者（**本人、家族、多職種チーム**）が、決定プロセスに納得している。

■ 透明性

意思決定のプロセスが明確で、後から見ても誰が、いつ、どのように関わり、どんな話し合いがされたかが分かる。

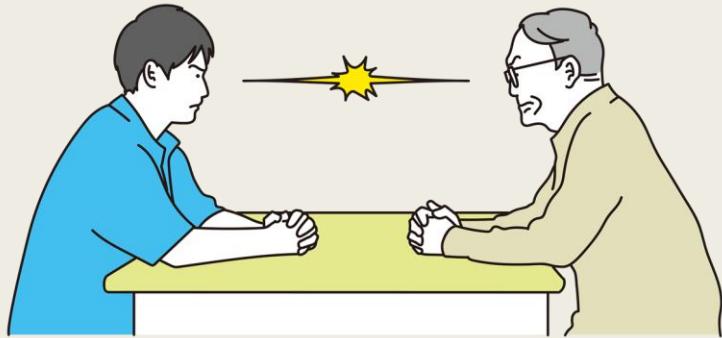
■ 繙続性

意思決定を一度きりと捉えず、状況の変化に合わせて見直され、柔軟に対応できる。意思決定を継続的なプロセスと捉える。

意思決定支援とも共通する

よくある倫理的ジレンマ

本人と家族の希望が対立



本人の「望まない選択」を尊重するか

家族の意向が一致しない



法律的にはどうなるの？

倫理と法律（AIに聞いてみた）

- 倫理と法律は、どちらも行動の基準です。
- 法律が国家権力によって強制される強制的な規範であるのに対し、倫理は社会的な規範や個人の道徳観に根ざした規範で、制裁の強制力がない点が異なります。
- 法律が社会で最低限守るべき規範を定めるのに対し、倫理はより広い範疇で、「人としてなすべきこと」を指し、法律の基盤となることもあります。

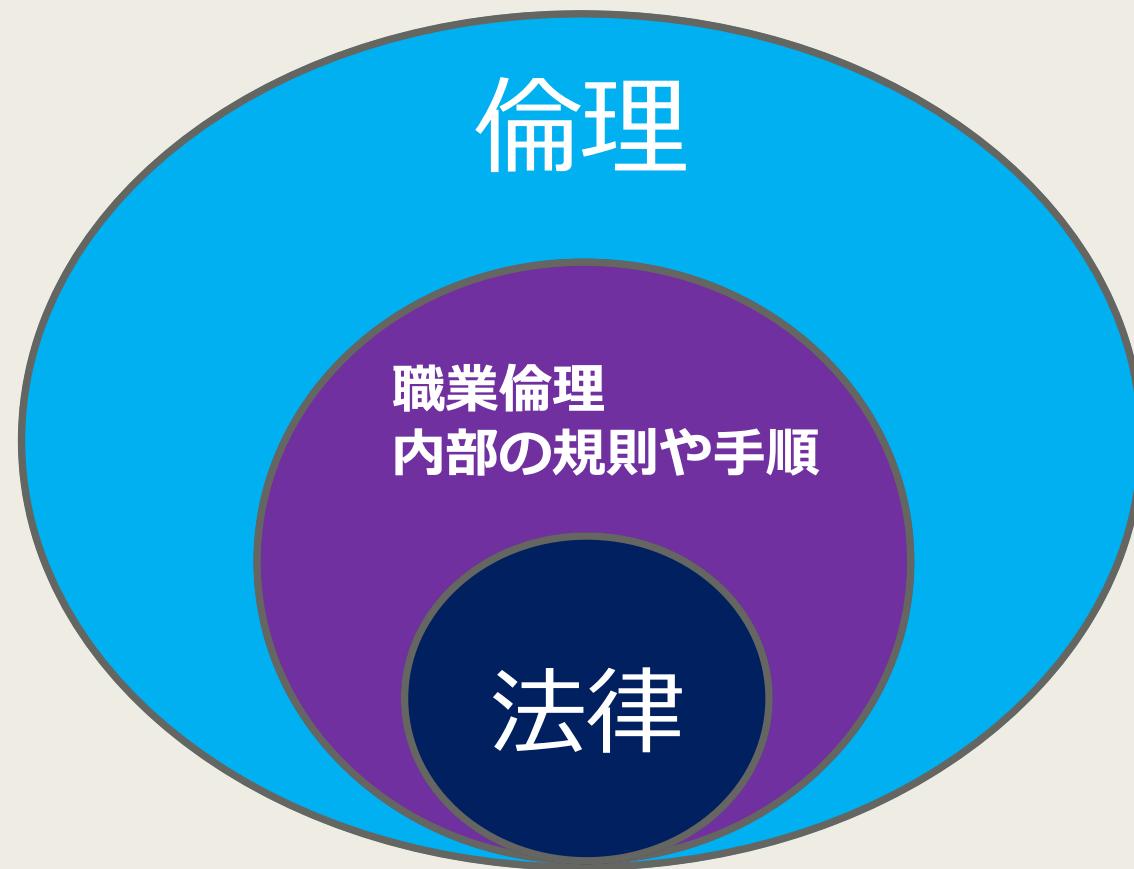
倫理と法律 (AIに聞いてみた)

両者の関係性

- 「法は倫理の最低限度」という原則があり、法律は社会で広く共有されている倫理や道徳観を基に、最低限守るべきことだけを成文化したものであると解釈できます。
- 倫理は法律を含むより広い概念であり、倫理的な行動や判断が法律の根拠となることもあります。

法は倫理の最低限度

- 倫理上の問題があっても、法律違反ではない？法的なトラブルにならない？



実際の裁判例1

- 事案の概要：終末期の患者について延命措置を実施しなかったとして、キーパーソン以外の親族からキーパーソンと病院が訴えられた事例



本人、キーパーソン、訴えを起こした家族も
話し合いに参加していた

裁判例1の結果

- **裁判所の判断**：裁判所は、キーパーソンと病院の責任を否定しました。
- **理由**：医療従事者と家族間での話し合いの場で、キーパーソン以外の親族がキーパーソンとは異なる何らかの意見を述べたとは認められない。キーパーソン以外の親族がキーパーソンと異なる意向を持っていたと病院が認識できる機会はなかった。あえてキーパーソン以外の意向を無視したという事情もない。

実際の裁判例から学ぶ教訓1

- **教訓：結果として責任は否定**されています。ただ訴訟を回避するには、「プロセス」が重要です。話し合いの内容を記録し、経緯を明確に残すことも必要となります。

私見

- **倫理的担保の内、納得性**に欠ける点があり、それが法的トラブルに発展した
- キーパーソン以外の家族とも話し合う、それが難しいようであれば、キーパーソンを通じて他の親族の意向を確認する
- ただ、**透明性**を担保する記録が残されていたため、責任は否定された

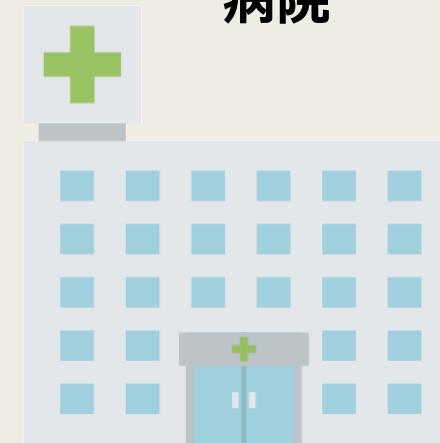
実際の裁判例2

- **事案の概要**：特養入所中に心筋梗塞で死亡した患者について、適切な医療措置が施されなかったとして病院が訴えられた事例
- 患者は特養での看取りを希望しており、書面にもサインしていた
- 特養は病院に隣接、当番の医師が訪問して診察していた

介護施設



病院



裁判例2の結果

- **裁判所の判断**：第一審は病院の責任を認めなかつたが、**第二審は責任を認めました。**
- 第一審は患者が終末期にあったと認定、**第二審では終末期ではなかつた**として、医師には患者のバイタルサインが急変した際に、少なくともカルテを確認し、バイタルサインに基づいて酸素吸入などの応急処置を行う義務があつたとしました。
- 終末期にあつたか否かで判断が異なる判決の結果となりました。

実際の裁判例から学ぶ教訓2

- 教訓：「看取りだから」「DNARだから」と漫然と急変時に何もしないのは問題。状態の悪化が元の病態から生じているのか、本当に回復の見込みがない不可逆的な終末期にあるのか、診察して、その内容をカルテ記載を残すことが必要。

私見

- 倫理的担保の要素（納得性、継続性、透明性）が全て欠けていたと考える
- DNARを意思決定した前提条件と同じ状況？（継続性）
- DNARを選択したプロセスの記録は？（透明性）
- DNARの選択時に本人や家族が納得する状況であったか？（納得性）
- 診療する医師が固定されていない場合、他の医師や他の職種との情報共有がより重要になる。

意思決定支援 = 倫理的担保 ⇒ トラブル回避

- 意思決定は変動する、結論は急がない、単純化しない
- 納得性・透明性・継続性

具体的には

- **記録の重要性**：支援プロセス、対話内容、本人の反応などを具体的に記録
- **証拠の確保**：書面による同意や、可能であれば映像・音声記録の活用

日常業務の中で「手間が掛かるな」「面倒だな」と思われるかもしれません。

後々にトラブルになつた方がもっと手間が掛かって、面倒です！

記録は、あなたとご本人を守る最強の武器！

- **法的根拠:**

なぜその判断をしたか、後で振り返るための客観的な証拠になります。

- **倫理的担保:**

「あなたのことをちゃんと見ています」「きちんと話を聞いています」という、ご本人やご家族へのメッセージにもなります。

- **チーム連携:**

記録があることで、スタッフ間で情報が正確に共有できます。

倫理的担保を大切にみんなで考える

■ 納得性

「自分の職種の当たり前」「自分の職場の当たり前」他の職種や職場では当たり前では無いことが多いです。

医療や介護の業界での当たり前が、本人や家族にとっては当たり前ではないこともあります。本人、家族みんなの意見を共有して、結論を急がない！

■ 透明性

記録は命！「言った言わない」「聞いた聞いていない」トラブルの発端です。
なぜその判断をしたか、しっかりメモして記録に残す。

■ 繙続性

意思決定は状況に応じて変化します。一度行われた意思決定の内容にこだわりすぎない。

本日のポイント

- **1つ目:**本人の意思確認が難しいときほど、**意思決定支援を丁寧に行う**ことが、倫理的担保に繋がります。
- **2つ目:**倫理的担保が欠けていると、法的なトラブルに繋がる可能性が高くなります。
- **3つ目:**記録と多職種での連携がトラブルを回避する鍵となります。トラブルの種に気付いてくれる人が増えます。